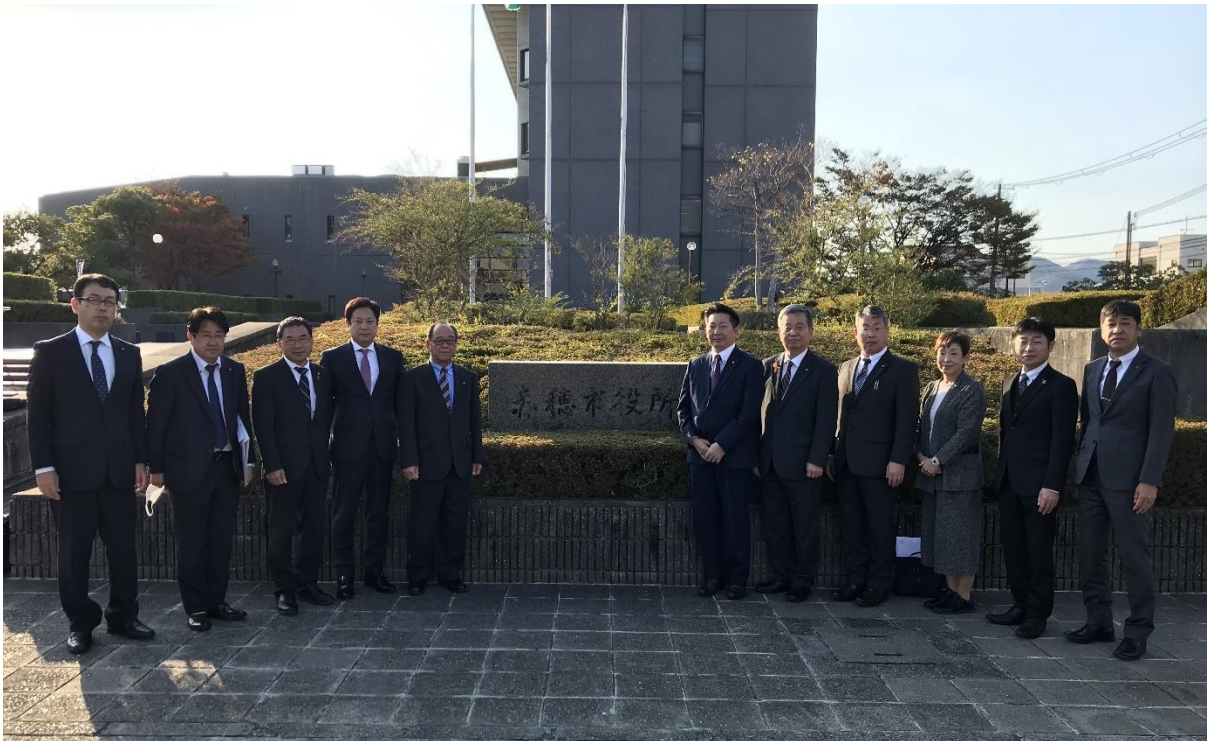


令和4年度

香芝市議会
行政視察研修報告書



赤穂市役所

福祉教育委員会

1. 概要

香芝市議会 福祉教育委員会 県外視察研修（令和4年度）

1. 日 程 令和4年11月7日（月）～11月8日（火）
2. 出席者 （委員長）中谷 一輝 （副委員長）木下 充啓
（委 員）小西 高吉 中村 良路 下村 佳史
上田井 良二 筒井 寛 青木 恒子
（理事者）福祉部長 平山 訓徳 教育部長 澤 和七
（随行者）議会総務課長 千葉 常雅

以上 11名
3. 視察地
 - ◆兵庫県赤穂市
兵庫県赤穂市加里屋81番地
人口：45,530人（令和4年9月30日現在）
面積：126.85km²
 - ◆岡山県岡山市
岡山県岡山市北区大供一丁目1番1号
人口：702,808人（令和4年9月30日現在）
面積：789.95km²
4. 視察事項
 - （1）赤穂市・・・ひきこもり対策推進事業について
 - （2）岡山市・・・ESDの取り組みについて
小中一貫校・義務教育学校について

本委員会は、令和4年9月議会において上記のとおり派遣を議決され、視察事項のとおり研修を行った。

まず、11月7日の午後に赤穂市役所を訪れ、「ひきこもり対策推進事業」の説明を受けた後、質疑等を行った。

翌11月8日には岡山市役所を訪れ、まず「ESDの取り組み」についての説明を受けた後、質疑等を行い、次に「小中一貫校・義務教育学校」についての説明を受けた後、質疑等を行った。

実施委員は、11月8日の夕刻に帰郷した。

2. 研修内容のまとめ

日 時：令和4年11月7日（月）

視 察 地：兵庫県赤穂市

研修内容：「ひきこもり対策推進事業について」

【赤穂市の概要】

兵庫県の南西部、岡山県との県境に位置し、人口は約4万5千人、面積は約127㎢のまちである。

市のほぼ中央を名水百選にも選ばれた千種川が流れ、北には緑豊かな山々が連なり、

南には瀬戸内海国立公園の一角を占める美しい海岸線が広がっている、自然環境に恵まれた温暖な地域である。

市域は、先土器時代などの古代遺跡が多く残る北部、河口デルタ上に発達した旧城下町の中心部、塩田の開発によって開かれた南部、天然の良港に恵まれた坂越地区の4つの特色ある地域に大別できる。

また、忠臣蔵のふるさと、塩のまちとしても知られ、市内には赤穂城跡や赤穂義士ゆかりの史跡が数多く残っている。昭和26年9月市制施行。



田淵委員長から歓迎の挨拶

○ひきこもり対策推進事業について

【赤穂市のひきこもりの現状】

15～39歳 推計値 約200人

40～64歳 推計値 約230人

赤穂市の人口（R4.8末） 45,609人

【取組】

ひきこもり対策推進事業を令和2年7月に開始され、相談業務を社会福祉課が、居場所づくり及び市民への啓発を社会福祉協議会が担っている。社会福祉課相談窓口「え〜る」で相談を受け付け、居場所となるみんなのいえへとつないでいる。また、市民啓発については、今年度はフォーラムを開催された。

◎社会福祉課相談窓口「え〜る」

令和2年10月に開設された。社会福祉課には、障がい者基幹相談支援センターと生活困窮者自立相談窓口が存在していたが、相談者が複合的な問題を抱えていること

から、この2つの窓口に1つの愛称をつけて、総合窓口としたものである。え〜るでは、総合相談的な役割を担う中で、ひきこもり相談も受けている。

◎みんなのいえ

令和2年10月に、自宅から一步踏み出した、安心して過ごせる居心地のいい場所を目指して、古民家を利用して開設された。利用者同士の交流、趣味、調理、農作業などの活動が行われている。

<実績>

・利用者数

令和2年度（10～3月）・・・117名

令和3年度・・・211名

令和4年度（4～9月）・・・191名

・利用者本人の得意なことを生かして、コミュニケーション能力の向上につなげた例や身だしなみを整えることが苦手な利用者が身なりを意識するようになった例などがある。

[所感]

赤穂市では、福祉に関する総合的な相談窓口を設けて、悩み事を抱える市民が相談しやすく、また支援の必要な市民を発見しやすい仕組みをとることで、ひきこもり問題を発見しやすくされていた。

また、実際に支援に当たる社会福祉協議会の方々からは、ひきこもり当事者の居場所となっている支援施設「みんなのいえ」における取り組みによる利用者の変化の事例の解説を受けた。

赤穂市におけるこれらの市と社会福祉協議会が連携した取り組みは、大いに参考になった。



研修風景

2. 研修内容のまとめ

日 時：令和4年11月8日（火）

視 察 地：岡山県岡山市

研修内容：「E S Dの取り組みについて」

「小中一貫校・義務教育学校について」

【岡山市の概要】

温暖な瀬戸内の気候により育まれた高級フルーツの産地としても有名な都市。岡山藩池田氏の城下町として栄えた江戸時代以来、地域中心都市として発展してきた高層ビルの立ち並ぶ中心部と、閑静な田園や中山間地域が広がる郊外部を持っている。

中四国のクロスポイントとして、1980年代以降の瀬戸大橋の開通、JR 線の四国との直通化、山陽自動車道の開通に伴い交通インフラが急速に整備され、岡山都市圏は周辺都市圏と共に東瀬戸経済圏として成長してきた。2005年以降、周辺4町と合併したこともあり、人口は70万人を突破。2009年4月1日には政令指定都市に移行し、北・中・東・南の4行政区が設置された。



中谷委員長挨拶

○E S Dの取り組みについて

[経緯]

岡山市では、平成25年に岡山市教育振興基本計画にE S Dを位置づけ、平成26年には「持続可能な開発のための教育の推進に関する条例」を制定し、その第6条「教育機関は、基本理念に基づき、自らの教育活動全体の中で総合的にE S Dに関する取組を行うよう努めなければならない。」に基づき、市立学校におけるE S Dの取り組みを進めておられる。

[取組]

岡山市では、「中学校区を単位とした学校園一貫教育（岡山型一貫教育）」と「岡山市地域協働学校（中学校区を一つの地域と見なし、学校園、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たす）」を2つの柱として、自立に向かって成長する子ども（自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども）を育成することを目指しており、その中にE S Dの視点を取り入れて取り組んでおられる。

E S Dに不可欠な視点	
問題意識	現代社会の持続不可能性 不確実で予測不可能な未来社会
価値観	人と人、人と社会、人と自然の「つながり」・「関わり」を大切にする 将来世代に対する公正さ・責任
目的	様々な人々とともに、持続可能な社会を「つくる」力を育む
重視する力	世界の「持続可能な開発」の課題に対する当事者性・主体性（自分ごととして捉え、考え、行動する力）
取り組み方	世界の問題を視野に入れて、身近な地域の課題に取り組む 様々な領域や立場の人が関わる
学習者	子ども・大人・地域の人・障害のある人・高齢者などあらゆる人

【岡山市立学校の令和4年度の学習活動例】

- ・地域の方と農作物を育てる。
- ・伝統文化にふれる。
- ・福祉に携わる方の話を聞く。
- ・防災に関する話を聞く。
- ・漁業組合の方と海苔すき体験をする。
- ・地域の文化遺産について学ぶ。

【実践事例】

＜岡山市立三勲小学校の取組＞

総合的な学習の時間でふるさと学習として「能学習」に取り組み、地域の方の協力を得ながら、稽古を重ね、後楽園の能舞台でその成果を発表することで、伝統文化を継承していくことの大切さを学んでいる。

[所感]

今の子どもたちは、近い将来、さらに不確実で複雑な課題に直面するといわれており、E S Dを教育課程に位置づけ、子どもたちが「持続可能な社会の創り手」となることができるように地域の実態に応じた学習活動を展開する取り組みは、大いに参考になった。

○小中一貫校・義務教育学校について

〔経緯〕

児童数の減少を懸念した地域が、平成30年度に「山南学区の小学校及び中学校の在り方を考える会」を立ち上げ、令和元年度には、学校園・保護者・地域住民により構成される「山南学園（仮称）設立協議会」へ移行された。

同設立協議会から、山南学区の5学校（中学校1校、小学校4校）を統合して義務教育学校を設立することについての要望書が同年度6月6日に、岡山市教育委員会に提出され、同教育委員会において義務教育学校設立の方向で進める方針が決定された。

〔実績〕

令和2年1月に教育委員会と山南学区の5学校（中学校1校、小学校4校）により構成される「山南義務教育学校準備チーム」を発足して設立準備業務を行い、山南中学校の敷地内に小学校の校舎を増築し、令和4年4月に岡山県初の施設一体型義務教育学校として「山南学園」が設置された。



研修風景

【山南義務教育学校準備チームの学校の組織構成】

チーム名	担当者	担当業務
総務チーム	主に学校の管理職	総務関係・・・校名・校章・校歌・記念行事・記念誌・スクールバス・学童など
管理チーム	主に学校事務職員	財務関係・・・文書・物品調整・保管移転・購入・契約調整・格納金・教職員及び勤務関係書類など
教務チーム	主に教務主任の先生	教務関係・・・教育課程・組織・日課・行事・通知表など
指導チーム	主に教科指導の先生	指導関係・・・学校指導等年間計画・校内研・生徒指導・特別支援・通学路・各教科備品調整など
施設チーム	各教室・設備担当	設計・工事関係・・・施設建築基本計画・設計・工事など

【義務教育学校の特徴を生かした取組】

- ・ 一部教科担任制の導入
- ・ 外国語教育の推進
- ・ I C T教育の充実
- ・ 異学年交流
- ・ ふるさと教育の充実

【教育課程編成について（目指す子ども像）】

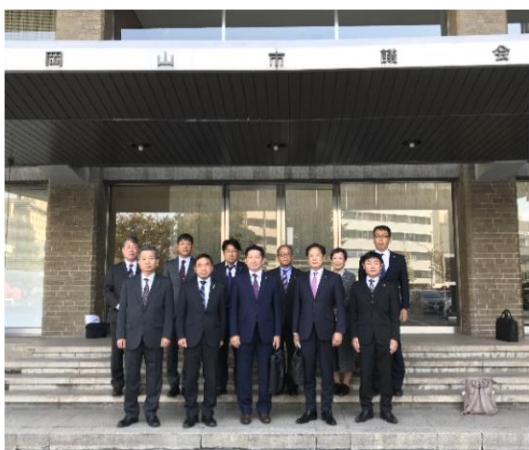
- ・ 地域を愛し、地域から愛される子ども
- ・ グローバルな視点を持ち、世界で活躍する子ども
- ・ 豊かなコミュニケーション能力を備えた子ども

【所感】

義務教育学校の整備にあたって、先生が学年を超えた協議を行ないやすくするための職員室へのフレキシブルな机の導入や授業において様々な人数にグループ分けに対応できるようにプレゼンテーションルームへの五角形の机の導入など、様々な工夫が行なわれており、有効に活用されているとのことであった。

また、義務教育学校の導入による効果として、開校から7箇月しか経過していないが、不登校の減少などの効果が見受けられるとのことであった。

本市においても、今後児童生徒数の減少が予測されており、学校の統廃合の実施にあたって大いに参考になった。



報告者 福祉教育委員会委員長 中谷一輝